

石水博物館 博物館運営の基本方針

石水博物館は、川喜田家歴代の当主である川喜田久太夫（号：半泥子）が昭和 5 年に設立した財団法人石水会館を母体としている。

江戸期経済勢力の雄として「伊勢商人」と呼ばれた者達の中に津の「川喜田家」があり、その第 16 代当主である半泥子は、同家繁栄の礎となった当地の人々への「ご恩返し」のためにこの財団法人を創設しており、その目的に基づき、当館は地域文化の振興と社会福祉活動の拠点として活動してきた。

昭和 50 年に登録博物館となってからは、津市丸之内の展示施設で地域に根ざした展覧会を開催しつつ、文化財の収集、保管及び展示に関する事業等を行い、もって地域文化の向上及び学芸の進歩に寄与する事業を中心として活動を続けてきた。

平成 22 年に法人名を公益財団法人石水博物館に変更するとともに、半泥子ゆかりの千歳山（津市垂水）に新しい展示施設を新築し、平成 23 年 5 月、移転開館している。

石水博物館の所蔵品は、江戸時代に伊勢商人の豪商であった川喜田家の旧蔵資料を中心としており、その分野は茶道具、日本画、洋画、古書典籍、錦絵、伊勢商人関係歴史資料など多岐にわたる。また、陶芸家としても著名な半泥子の作品や周辺資料も多数保存管理している。

このような背景に基づき、石水博物館は所蔵資料のみならず、地域の貴重な文化財の調査、展観を通じて、価値やそれに関わる人の活動などの情報が広く共有されるよう、公開と発信に取り組むとともに、地方公共団体、学校、社会教育施設や他博物館等、さまざまな団体等と相互に連携しながら、地域の活力の向上に取り組むことで、地域への「恩返し」を続けていく。

また、これら活動を担う職員、特に学芸員は、多岐にわたる石水博物館所蔵資料の調査・分類や資料収集、展覧会企画・運営等、その専門性の発揮により地域文化の向上を担う重要な財産であるとの認識のもと、人材確保や育成、適切な職場環境や処遇等を通じて、意欲的に業務遂行できる環境を整えていく。

なお、昭和 5 年に半泥子が川喜田家所蔵品の収蔵のため自邸敷地内に設けた蔵である「千歳文庫」については、現在も機能している石水博物館の収蔵庫であり、登録有形文化財である。今後も適時適切な老朽化対策を施すことで、収蔵庫としての機能維持とともに、地域の貴重な文化資源としての価値の維持に努めていかなければならない。

以上